

Japan OTIC が O-RAN 相互運用性試験 (IOT) バッジを発行

－ 移動通信事業用基地局無線設備のオープン化を促進 －

JapanOTIC (*1) は、製造者の異なる O-RU と O-DU/CU (*2) を組み合わせた場合において、O-RAN ALLIANCE (*3) が定める仕様 (O-RAN 仕様) に基づき試験を行い、その結果、O-RAN 仕様に定める相互運用性に適合することが確認されましたので、この適合を証明する O-RAN 相互運用性試験 (IOT) バッジ (*4) を両装置に対して発行しました。

Japan OTIC による O-RAN 仕様適合の証明 (バッジ) の発行により、製造者にとっては採用・参入機会の拡大、通信サービスにとっては機能高度化、開発・導入期間の短縮といった効果が期待され、日本はもとよりグローバルに、よりオープンでより確実・安全な 5G 通信社会の実現への貢献が期待されます。

O-RAN 相互運用性試験 (IOT) バッジの概要

認証 ID	ネットワークの種類	被試験装置	製造者	モデル名
JPOT250001	5G NR	O-RU	DENGYO Technology 株式会社	NR878H4
	5G NR	O-DU/CU	富士通株式会社	TA04013-B835

- *1 **Japan OTIC (ジャパンオーティック)** : 一般社団法人YRP研究開発推進協会、株式会社NTTドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社及び楽天モバイル株式会社の共同運営によるOTICであり、日本で唯一のOTICです。2022年12月横須賀市の横須賀リサーチパーク内に設立されました。OTIC (Open Testing and Integration Centre) は、O-RAN ALLIANCEの定めた仕様 (O-RAN仕様) に基づき、同ALLIANCEの承認を得て設立される組織です。移動通信事業用基地局無線設備を構成する各装置やそのインターフェースにおけるO-RAN仕様との適合性を確認する試験、その適合性が確認できたときの証明 (認証やバッジ) の発行、その他O-RAN仕様の普及活動などオープンRAN普及促進の拠点として活動します。世界各地に19 (*) のOTICが設立されています。
- *2 **O-RU と O-DU/CU** : 移動通信事業用基地局無線設備を構成する装置であり、それぞれ O-RAN 仕様で定義する O-RAN Radio Unit、O-RAN Distributed Unit、O-RAN Central Unit であり、O-DU/CU は O-DU と O-CU を一体化した装置です。
- *3 **O-RAN ALLIANCE**: 移動通信事業で利用する無線アクセスネットワーク (RAN) をよりインテリジェントでオープン、仮想化され、製造者が異なる機器を接続しても完全に相互運用可能となる移動通信ネットワークの実現に向けて 2018 年に移動通信事業者によって設立された団体であり、現在、世界の移動通信事業者 32 社 (*) と関連メーカー等の合計 290 社 (*) から構成されています。移動通信事業用基地局無線設備を構成する各装置やそのインターフェースにおける仕様 (O-RAN 仕様) 定める活動など行っています。
- *4 **O-RAN 相互運用性試験 (IOT) バッジ**: OTIC が発行する証明 (認証やバッジ) の一つで、移動通信事業用基地局無線設備を構成する装置 2 つ (例えば O-RU と O-DU/CU) を組み合わせたときに O-RAN 仕様に定めた相互運用性試験 (IOT: Interoperability Test) を行い、O-RAN 仕様に適合しているときには証明 (バッジ) を発行します。

* : O-RAN ALLIANCE ウェブサイト <https://www.o-ran.org/> 2025年3月24日閲覧時

■ 本発表に関するお問合せ ■

Japan OTIC 代表会員 一般社団法人YRP研究開発推進協会 担当 : 鳥越、大矢、山口

TEL : 046-839-0222 メール : contact-us@japan-otic.jp ウェブサイト : <https://japan-otic.jp/>